

まちなかに賑わいを取り戻す

施策について

小林 信議員

定住を促進するために

【質問】 近年、全国的に中心市街地といわれる地域の人口が減少し、賑わいが失われています。館林もその例に漏れず、ちなみに、平成10年と25年の人口を比較すると、市内全体では667人増加しておりますが、館林地区では581人の減少。

さらに、中心市街地では541人の減少と顕著に現れております。こうした地域に定住を促進するために、どのような取り組みを行っているのか、お尋ねします。

事業実施に向けて

【答】 中心市街地活性化基本計画の中の居住推進ということで、新築住宅取得助

成事業、賃貸住宅家賃補助事業など新規事業が組み込まれておりますが、詳細な計画ができていないのが現状であります。都市再生整備計画推進本部を中心に、事業実施に向けて進めてまいりたいと考えております。

空き家の有効活用は

【質問】 市内の空き家の実態を調査した結果、全体で512軒あり、旧市内が217軒で42・3%、そのうち中心市街地が130軒とい

う状況であります。空き家に関して全国各地でいろいろな取り組みが行なわれており、ある市では、リフォーム工事に助成金を交付し、リフォームした空き家を若い世代に貸し出し、まちなかに定住人口を増やそうと努力されています。まちなかに賑わいを取り戻すためには歩いて買い物ができるような定住を図っていかなくてはならないと思います。館林はどのように考えているのか、お尋ねします。

【答】 県では空き家活用・住みかえ支援事業を行っております。持ち家を一般社団法人移住・住みかえ支援機構が借り上げて貸し出すもので、安定した家賃収入が保障されるメリットがあります。子育て世代など借り手側も、良質な住宅を相場より安い家賃で借りることができます。空き家対策として、適正管理と併せて有効活用を図ることは重要と認識しております。

館林市の財政状況と 市立図書館について

町井 猛議員

【質問】 国の設置した「選択する未来」委員会の提言では、2060年には人口が約8700万人と現在の3分の2の規模まで減少するそうです。本市は首都圏に近く、人口の減少は少ないと思われませんが、今後の人口減少に伴う財政等の考えについて伺います。

【答】 本年4月現在の数値と、国立社会保障・人口問題研究所が推計した平成42年の数値を比較しますと、人口は7万8360人から6万8356人となり、約1万人、率にして12・8%が減少すると推計されております。また、15歳以上65歳未満の生産年齢人口にお

いては、4万8390人から3万9952人と推計され、約8千人が減少する一方で、65歳以上の老年人口では、1万9597人から2万1230人に増加すると推計されております。これらの人口減少等を踏まえた今後の本市財政の影響については、市税における個人市民税の減少が予想される中、老年人口の増加に伴い社会保障関係経費の増加が見込まれております。総じて歳入の減少に歳出の

増加という厳しい財政運営が予想されておりますが、財政の健全性に十分留意しつつ、本市が取り組んでいる緊急少子化対策事業を初め、学童保育などの保育充実事業や、各種の子育て施策を充実させ、若い世代を中心に館林市に住んでみたい魅力ある都市の確立に全力で取り組んでまいります。

【質問】 若い世代を初め多くの市民の方々が本に親しみ、楽しく図書館へ足を運んでいただくためには、建て替

えが望ましいが、現在の図書館は建築後どのくらい経過しているのか、伺います。

【答】 図書館は、社会教育施設として市民の自主的な教育を支援するとともに、市民の皆様が本に親しみ、気軽に利用していただけることを目指して努力しております。当館は、昭和49年に開館してから40年が経過し、来館者にご不便をおかけする場面もありますが、可能な範囲で改修改善に努めているところであります。